D 106　服装による意味伝達（2）——現代における身体変形

共立女大家政　○玉田真紀　伊藤紀之

目的　人は自分のもつ身体の大きさやかたち、色などに、いつの時代も不満をもっている。どんな身体特性を示したいかは時代や民族によって異なるものだが、現代はどのような価値観をもち、また、その欲求は服装にどう表現されているのだろうか。身体変形の表現として服装をとらえることにより、現代の服装による意味伝達のはたらきについて考察を試みた。

方法　昭和62年12月、共立女子大学被服学科学生（18～23歳）85名と母親（42～57歳）34名を対象に、身長・体重・バスト・ウエスト・ヒップサイズについては数値で、また、身体特性39項目については5段階評価で、現実及び理想とする姿を記入してもらった。さらにそれら身体特性からうけるイメージについて、質問紙による調査を実施した。

結果　①身長・体重・バスト・ウエスト・ヒップサイズについては全員がいずれかに不満をもっており、学生・母親共に現実のデータはばらつきが大きいのに比べて、理想とする姿に集中する値がいくつかみられた。②身体特性の評価は、学生の場合ほぼ半数の項目について現実と理想の姿が逆転した。特に、二重まぶた、歯の並びと色、肌のきめと色、脚と指の長さに顕著な欲求がみられた。母親の欲求は学生に比べて低かった。学生と母親の理想の姿の評価を比較すると、特に爪の色と髪の特徴に価値観の差がみられた。③理想とする身体特性からは、きれい、知的、上品、かっこいいなどの好ましさや、大人っぽい、セクシーなどの女らしさ、活発、健康的などの明るさがイメージされており、身体の細部の特徴に意味伝達の効果がある様子が読みとれた。